

貯水率9%に 宇連ダム改善

愛知県東部や静岡県西部に農業・水道・工業用水を供給する豊川用水の主要水源「宇連ダム」(愛知県新城市)が枯渇していた問題で、水資源機構豊川用水総合事業部は二十一日、寒冷前線の本州通過による降雨により、午後四時時点の貯水率が9%に改善したと発表した。

水資源機構によると、宇連ダムでは二十日から二十一日午前中にかけて一五〇ミリの降水を観測した。枯渇した十九日以降、愛知・静岡の県境にあり天竜川水系の佐久間ダムから導水し対応していたが、降水を受け二十一日午前二時すぎに中止。同日午前四時から、宇連ダムの貯水を再開した。

宇連ダムを補完する「大島ダム」(新城市)にはまだ91%の貯水率があり、七カ所の調整池も合わせると、貯水率は二十一日正午時点で35・5%となっている。しかし豊川用水の節水率は引き続き15%を維持する。



20日夜からの雨で、貯水率がわずかに回復した宇連ダム。21日午後、愛知県新城市で、本社へ「おめでとう」から

夏の緊張を乞う雨

主要ダム 昨年比低下

枯渇していた宇連ダムは、二十日夜からのまとまった雨で最低限の貯水量を取り戻した。ただ二十一日からは真夏日のような晴天が続くとみられており、予断は許されない状況。昨年の同時期に多くが貯水率100%だった中部地方の他の主要ダムでも水位が低下し、夏本番の濁水が心配されている。



なぜ突出?

- ① 雪解け水の流入ない
- ② 河川の流域面積狭い

宇連ダムの枯渇を受け、普段は見られない湖底を見ようと見学者が殺到している。立ち入りが禁止されている湖底に足を踏み入れる見学者が多くなっており、管理する水資源機構は「危険で、水汚染の可能性もある」として湖底へ立ち入らないよう呼び掛けている。

宇連ダムでは、貯水率低下で湖底に沈んだ滝や橋などが出現し話題に。18日、19日の週末には、1000人超が訪れたとみられ、周辺道路が混雑した。

湖底に入らないで

施設外観の見学は自由だが、湖底付近ではぬかるみに足を取られたり、沈んでいた古い構造物が壊れたりする危険がある。立ち入りによってダムの水が汚染される可能性もあるという。

機構豊川用水総合事業部の大木洋介管理課長は「機構は降水の確認やパルプの操作などが第一の使命で、見学者の安全誘導に人員は割けない」と話している。(高橋雪花)

「一週間雨が降らないと、また同じような事態になるかもしれない。再び他のダムから導水することも考えられている」と話している。

気象庁によると、中部地方の山間部では、四月二十一日から五月二十日の一カ月間の降水量が、平年に比べて四割から七割程度にとどまる地域が多かった。

二十二日からは、日本列島に南から暖かい空気が流れ込む影響で晴れの日が多くなる。気温も上昇し、夏本番を思わせる暑さになりそうだ。六月も平年に比べ、雨や曇りの日は少ない見込みという。

ただ六・八月の三カ月予報で、降水量について気象庁担当者は「今のところ、平年並みか多くなりそう」とみている。

水資源機構中部支管内(愛知、三重、岐阜県)では、宇連ダムに加え、愛知県尾張、知多地方や岐阜県東濃地方の水がめになっている牧尾ダム(長野県)でも節水(農業用水20%、水道用水10%、工業用水20%)を実施。機構によると、夏を迎える前の節水は極めて異例。担当者は「昨秋から降水量が少ない状態が続き、早々と水不足に陥った」と分析する。

牧尾ダムの二十一日午後五時現在の貯水率は37・4%。機構の担当者は「天気予報とにらめっこしながら、例年並みに雨が降るのを願っている」と話す。昨年五月二十一日時点の宇連ダムの貯水率は98・7%、牧尾ダムは87・5%だった。

両ダム以外の中部地方の主要ダムでは、現段階で貯水率は49・91%で十分な貯水率が保たれている。しかし昨年同時期は多くが貯水率100%で、比較的低い水準にとどまっている。

「えはいる」。水資源機構豊川用水総合事業部の大木洋介管理課長は、宇連ダムの苦しい現状を明かす。

宇連ダムは周辺の山の標高が比較的低く、雪解け水の流入がない。加えてダムに流れ込む宇連川は、木曾川などに比べ流域面積が狭く、雨水を集めにくい。